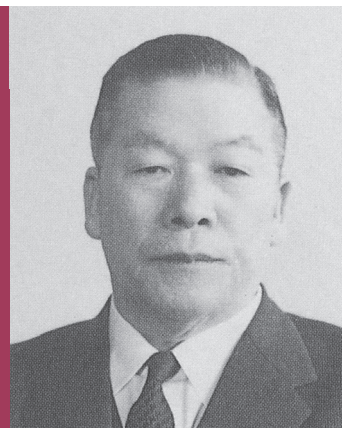


西山 彌太郎 小伝

Yataro Nishiyama



西山彌太郎氏は、明治26年（1893年）神奈川県二宮町に生まれ、大正8年7月東京帝国大学工学部鉄冶金学科卒業と同時に、川崎重工業株式会社の前身である株式会社川崎造船所に入社し、それ以来専ら同社製鉄部門の拡充発展に努め、さらに昭和25年同社製鉄所が川崎製鉄株式会社として分離独立後は取締役社長となり、その後昭和40年社長を辞任して会長となり昭和41年8月逝去された。

この間における氏の輝かしい功績は枚挙に暇がない。大正14年にはわが国で初めてルップマン式平炉製鋼方法を確立し、この功績によって昭和7年服部賞を授与されている。その後引き続き平炉製鋼技術の改善研究に努め、昭和26年には茸合工場の平炉において大量酸素製鋼法の技術的基礎を確立し、30年には千葉製鉄所の平炉にこれを適用して驚異的な成果を収めた。これは鉄鋼技術史屈指の業績ともいべきもので、わが国独自の優れた製鉄技術を世界に顕示するものであった。一方、昭和7年にはわが国最初の珪素鋼板製造の端緒を開き、以来たゆまぬ研究開発の結果、昭和26年には国産技術による高性能珪素鋼板の製造に成功し、その後相次いで方向性珪素鋼帯の製造技術を確立してその名声を不動のものとした。さらに、砂鉄精錬の分野においてもドイツのレン法を採用し、昭和14年に久慈工場において本格的精錬を開始している。

このような技術的功績とともに特筆すべきは、千葉製鉄所の建設にあたって示された氏の鉄鋼事業運営に関する卓越した功績である。すなわち戦後産業経済の混乱期において、いち早く鉄鋼業が国家の基礎産業として進むべき将来の方向を明確に把握し、わが国鉄鋼業を世界的水準に高めるべく根本的な体質改善を目指して、周到な計画と果敢な実行力をもってストリップミルを中心とする臨海銑鋼一貫工場の建設に着手し、幾多の困難を克服して、最新の科学技術を駆使した典型的な高能率一貫製鉄所を完成したことである。このようにして、業界における同社の飛躍的発展がもたらされたことは言うまでもないが、これがその後の鉄鋼合理化計画に対して革新的な示唆となり、今日のごときわが国鉄鋼業の目覚ましい成長と国際競争の養成強化の礎石となったものである。

同氏の逝去後、川崎製鉄株式会社では、氏が生前鉄鋼技術の研究に深い関心を払われたことを考慮し、2,000万円（後に追加寄贈）を日本鉄鋼協会に寄贈されたので、本会では昭和42年西山彌太郎記念資金を制定し、その利子をもって鉄鋼の学術技術の研究に功績のあったものに対する西山賞及び西山記念賞の授与、ならびに西山記念技術講座の開催事業の費用に充てることとした。